

血分たぬ母娘のなかに忍び寄る酷薄の風  
が今日も広がる

さまざまある哀しみもある過去を秘むれ  
離れ歩を選びゆく  
われもまた幸せ深き妻ならん身ごもれる  
日の空かがやきぬ

雑沓ののにクラスメートの隣あり夫より  
未来をえがく

さがもつ心の垣根知りしよる熟き熟き紅  
葉を音もなく注ぐ

陽の匂い髪にじしませ子は眠る祈る姿熱  
に紅体まるめて

基地ちか新しき家に移り来て明るい空  
に未来をえがく

さがもつ心の垣根知りしよる熟き熟き紅  
葉を音もなく注ぐ

陽の匂い髪にじしませ子は眠る祈る姿熱  
に紅体まるめて

### 山北不二子選歌集

#### 「仰光」



40.12.20

発行所 世田谷区世田谷1丁目10番4号  
伊藤先生方 四二九〇六六九  
社会福祉事業団体  
日本聴性マヒ者協会  
編集者 広報部  
印刷三誠社 三〇〇八八〇九

### 特集 結婚について

#### 結婚は問題の解決ではない

##### 中村 敏一

結婚“それは人間なら誰しも一度は考える、人間の本質的な事柄であろう。その人間として本質的な事をわれわれ身障者はつい近頃まで禁じられたも同然であり、それについて考えることすらタブーのような状態にあつた。それがわれわれのバイオニアたちが勇気を出して結婚の手本を示してくれ、次第に結婚する者が増えて来て、最近では身障者の結婚を奨励するような風潮さえ出てくるといふのでそこで、今まで禁じていた反動と結婚したいということになって来たのだが、その人たちがはたしてどの程度の結婚生活についての知識とそれをやり通して行く自信と覚悟を持っているだろうか。たゞ、あの人結婚したのだから、出来たんだから自分もしょうとか、單に結婚ということへのあこがれからだと思われるような人

もいるようだ。例え、和田君の「愛の証しおとぎ」を読んで、そこに書かれている表面の事だけを鵜呑みにして、これくらいなら自分にも出来る、和田君のマネをしようと安易に思う人がいたら、それはとんでもないことだ。人の食べている物はおいしく見えるという、人マネで結婚生活が出来るものではない。また、結婚すれば生活の問題やその他いろいろの問題が解決されるかのような錯覚にとらわれている人がいるが、結婚したら問題がなくなるのではないか、たゞ二人が夫々持っていた問題を一緒にして、二人でそれを共有するだけであり、問題は決して減りはないのであり、反つて増えさえするのである。(その問題を一人で解決し、乗り越えて行く)そこに本当の夫婦の愛が生れるのだろうが、とにかく結婚についてもよく知り、考えてもらいたいと思って、このような特集をしたのである。

新年会のお知らせ

日時 昭和四十二年一月十五日(土) 後前十一時より

場所 世田谷区世田谷2-2-2034  
伊藤方 青い芝の会事務所

会費 二百円(昼食代を含む)

注意 準備の都合がありますので一月十日までに本部へ申し込んで下さい。  
会費は当日頂きます。

又、新年は一月八日からにして下さい。  
尚本部への電話連絡は十二月二十九日まで

交通 小田急線豪徳寺駅下車又は渋谷より玉川線玉電山下駅下車

至新宿  
至玉山駅  
至豪徳寺駅  
至ガード  
至商店街  
青い芝事務所

とたゞざれています。

御注文は青い芝の会事務所へ  
(売り上げ金は会の資金になります。)

### 神奈川県支部例会おしらせ

神奈川支部では例会を開きますから多数御出席下さい。

日時 十二月五日(日)  
(横浜駅東口に午後一時集合)

### 編集後記

○ 今号と次号の二回にわたって、結婚後の生活の実況記録を特集することにした。というのは、近頃私たちの仲間で結婚する人達が増えて来たが、(それはそれでよい事なのだが)、そのためそれに刺激され、その表面だけを見て、結婚すればすべてが解決するよ

うな気になつて結婚を望む人達も出来来たので、結婚してみれば結婚前には考へてもみなかつた問題があり、その生活は生やさしいものではなく、一見幸福そうでもそこには人並以上の努力と苦労があるという事を皆に知つてもらいたいからである。この問題についても精を寄せてほしい。

○ 特集の結婚については十二月十日迄

○ この機関紙を第三種郵便物に認可してもらうには公共性がなければならないので、一頁目と二頁目は公共性のある記事や論説にした。

○ 会報も毎月発行する様になつたのはそれだけ会の発展を見た事になるだろう。果してそう言えるだろうか、そういう事ばかり言えない面もあるだろう。会報は会の有方を伝えるのはどうかと思う。もつと本部と支部が協力してやつて行きたい。

これからは、今回で特集した様に次ぎから次ぎにテーマを決めてのせて行くので、協力を願つて、ありのままを書いて下さる。

○ 石橋君が七ヶ月もたつても全快されないので交通事故には、お互に注意すると共に彼の全快を一日も早くされる様に心から祈つて下さい。

○ 特集の結婚については十二月十日迄

○ だけ会の発展を見た事になるだろう。果してそう言えるだろうか、そういう事ばかり言えない面もあるだろう。会報は会の有方を伝えるのはどうかと思う。もつと本部と支部が協力してやつて行きたい。

これは、今回で特集した様に次ぎから次ぎにテーマを決めてのせて行くので、協力を願つて、ありのままを書いて下さる。

○ 石橋君が七ヶ月もたつても全快されないので交通事故には、お互に注意すると共に彼の全快を一日も早くされる様に心から祈つて下さい。

○

— 16 —

## 結婚と云うこと

高 壇 断二

青い芝の方から結婚に付いて書けと云われたので一応かいて見ることにします。結婚ということは両性の合意が有れば成立すらでは先づ不可能で有ると思はれます。社会的にも世間的にも不可能な状態の中で両性の合意だけで、結婚を成立さす事はその個人のもうれつに強い意志力と実行力が必要で普通の人々ではとうてい出来ない事で有ると考えられるのです。

普通の場合には結婚を考える前に両親が同意や経済的なうらづけや何やら色々な常識的な事がないと成立はしないし又結婚にふみ切る人は先ずはないと考えられます。

では本当に我々OP者で常識的に生きて居る者が居るのでしょうか。大体今世の中ではOP者が生活している事自体が私には常識的ではない様な気がします。その常識的でない生き方をしているOP者がなぜ結婚という事になると常識の道を一歩もふみはずまいとするのか私にはどうしても理解が出来ないです。それをもっと具体的にいうと

「両親の同意を得る事にしても、男女両方に親が居る場合には親達二人ずつ四人、本人二人を合せ計六人の人の同意が必要となつて

来るのです。大の大人の人、六名が全く意見が同じになるなんて事は私には信じられない事であるし、又、OP者(障害者)の親達が

この様に同じ考えになる事は先ずないと断定してもまちがいないと思います。特に障害者

同志が結婚する場合にはこれが強く出る様で必ず親という者は自分の方が障害者で相手が

健常者の場合には割と平気でけどその反対

同志が結婚する場合にはこれが強く出る様で必ず親という者は自分の方が障害者で相手が

健常側の方に一方的に多いのです。

日本では昔から結婚するといふ事は男女両性が協力して家庭を作るのでなく一方的に男

の都合の好い様な具合にしなければ成立しなかつたのです。嫁に行くという事は夫の家

の一員となる事で有り、決つて夫の妻となるのではなくかったのです。その事は今でも世間によく有る話しだですが、例えば夫婦になつてからも、もし事故か何かで夫(男)の方が

障害者になつた場合には妻(女)はどんな無理をしても自分の夫を子供を喰わして行き離婚なんて事は考えないし周囲の者も当り前の事と思つてゐるのですが、その反対の場合、つ

まり妻なる人が障害者になれば先ず本人達より周りの人達が離婚と云う事を考へる様です。

男性の側からいえば、嫁さんは一つの道具で

有り労働力で有るので、道具を買う場合に

我が家なるべく故障のない丈夫で長持するのを買います。これと同じ様な考え方方がまだ

まだ世間には有るのでナ。結婚という事と品

来るのです。大体よくいわれる事ですが、障

害者の相手には健常者が好いか障害者同志の

方が好いかという様な事が我々が結婚問題を

考へる場合には必ずと言つてよいぐらい出る

のですがこれはこんな事を言上げする方が変

な事で有ると思ひます。障害があろうとなかろう

事です。本当にその相手の人格が自分にあきわ

しければ身体の一部に障害が有るなんて事は

問題になる筈はないのです。私が今迄に仲人

をしたのは十組ほど有りますが、内OP者同

志の組が五組。健常者男性とOPの女性の組

が二組、盲女單一とOPの女性 盲一女性と

健常者の男性。健常者同志、という様なわけ

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうしても障害を持つてゐる女性は不利な

で意識的にその様になつてしまつたのです。

私がこの仲人をして気付いた事は結婚して成

功してちゃんと家庭生活をして居る者は皆ん

物を買うのと一绪に考へる事がたしかに変な

事です。しかし現実にはそんな考へ方が多い

のですから仕方ありません。不自由児を育

す。二七才になる私は未だに独身です。別に

家庭の事が出来ないのでないのです。経済

的ないのでもあります。家庭の事はた

めに予想もつかない所だら多方面に

発展してくる。だからといって結婚するなど

になつたのかどうも疑問である。結婚前に大

きな予想はしていても結婚してから起る諸々

のものは、予想もつかない所だら多方面に

おこうと考へています。現実はきびしいの

ですが結婚だけはする気です。苦しみは嘗悟

されそれの処で生活できる程度生活保護

をおそいだけで出来ますし、経済の方もチヤ

ウカラ共稼ぎをしなければやついけないよ

うですから、私は私の道を築くのです。

しかしながらとゆのない文章になつてしまい

ましたが、みなさんの中の一人でも私の考

えている事がわかつてくだされば幸いです。

青い芝の方から結婚に付いて書けと云われたので一応かいて見ることにします。

結婚ということは両性の合意が有れば成立す

らしかに両性の合意さえ有れば出来る事なので

す。しかし社会的に世間的には両性の同意だ

けでは先づ不可能で有ると思はれます。社会

的にも世間的にも不可能な状態の中で両性の

合意だけで、結婚を成立さす事はその個人の

もうれつに強い意志力と実行力が必要で普通

の人々ではとうてい出来ない事で有ると考え

られるのです。

普通の場合には結婚を考える前に両親が同

意や経済的なうらづけや何やら色々な常

識的な事がないと成立はしないし又結婚にふ

み切る人は先ずはないと考えられます。

では本当に我々OP者で常識的に生きて居

る者が居るのでしょうか。大体今世の中では

OP者が生活している事自体が私には常識的

ではない様な気がします。その常識的でない

生き方をしているOP者がなぜ結婚という事

になると常識の道を一歩もふみはずまいと

するのか私にはどうしても理解が出来ないです。

それをもっと具体的にいうと

「両親の同意を得る事にしても、男女両方に

親が居る場合には親達二人ずつ四人、本人

二人を合せ計六人の人の同意が必要となつて

来るのです。大の大人の人、六名が全く意見

が同じになるなんて事は私には信じられない

事であるし、又、OP者(障害者)の親達が

この様に同じ考へになる事は先ずないと断定

してもまちがいないと思います。特に障害者

同志が結婚する場合にはこれが強く出る様で

必ず反対するものであるのです。この事

は男性側の方に一方的に多いのです。

日本では昔から結婚するといふ事は男女両性

が協力して家庭を作るのでなく一方的に男

の都合の好い様な具合にしなければ成立しなかつたのです。嫁に行くという事は夫の家

の一員となる事で有り、決つて夫の妻とな

るのではなくかったのです。その事は今でも世

間によく有る話しだですが、例えば夫婦になつてからも、もし事故か何かで夫(男)の方が

障害者になつた場合には妻(女)はどんな無

理をしても自分の夫を子供を喰わして行き離

婚なんて事は考えないし周囲の者も当り前の

事と思つてゐるのですが、その反対の場合、つ

まり妻なる人が障害者になれば先ず本人達

より周りの人達が離婚と云う事を考へる様です。

男性の側からいえば、嫁さんは一つの道具で

有り労働力で有るので、道具を買う場合に

我が家なるべく故障のない丈夫で長持するのを買います。これと同じ様な考え方方がまだ

まだ世間には有るのでナ。結婚という事と品

来るのです。大体よくいわれる事ですが、障

害者の相手には健常者が好いか障害者同志の

方が好いかという様な事が我々が結婚問題を

考へる場合には必ずと言つてよいぐら出る

のですがこれはこんな事を言上げする方が変

な事で有ると思ひます。障害があろうとなかろう

事です。本当にその相手の人格が自分にあきわ

しければ身体の一部に障害が有るなんて事は

問題になる筈はないのです。私が今迄に仲人

をしたのは十組ほど有りますが、内OP者同

志の組が五組。健常者男性とOPの女性の組

が二組、盲女單一とOPの女性 盲一女性と

健常者の男性。健常者同志、という様なわけ

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうしても障害を持つてゐる女性は不利な

で意識的にその様になつてしまつたのです。

私がこの仲人をして気付いた事は結婚して成

功してちゃんと家庭生活をして居る者は皆ん

物を買うのと一绪に考へる事がたしかに変な

事です。しかし現実にはそんな考へ方が多い

のですから仕方ありません。不自由児を育

す。二七才になる私は未だに独身です。別に

家庭の事が出来ないのでないのです。経済

的ないのでもあります。家庭の事はた

めに予想もつかない所だら多方面に

おこうと考へています。現実はきびしいの

ですが結婚だけはする気です。苦しみは嘗悟

されそれの処で生活できる程度生活保護

をおそいだけで出来ますし、経済の方もチヤ

ウカラ共稼ぎをしなければやついけないよ

うですから、私は私の道を築くのです。

しかしながらとゆのない文章になつてしまい

ましたが、みなさんの中の一人でも私の考

えている事がわかつてくだされば幸いです。

青い芝の方から結婚に付いて書けと云われたので一応かいて見ることにします。

結婚ということは両性の合意が有れば成立す

らしかに両性の合意さえ有れば出来る事なので

す。しかし社会的に世間的には両性の同意だ

けでは先づ不可能で有ると思はれます。社会

的にも世間的にも不可能な状態の中で両性の

合意だけで、結婚を成立さす事はその個人の

もうれつに強い意志力と実行力が必要で普通

の人々ではとうてい出来ない事で有ると考え

られるのです。

普通の場合には結婚を考える前に両親が同

意や経済的なうらづけや何やら色々な常

識的な事がないと成立はしないし又結婚にふ

み切る人は先ずはないと考えられます。

では本当に我々OP者で常識的に生きて居

る者が居るのでしょうか。大体今世の中では

OP者が生活している事自体が私には常識的

ではない様な気がします。その常識的でない

生き方をしているOP者がなぜ結婚という事

になると常識の道を一歩もふみはずまいと

するのか私にはどうでも理解が出来ないです。

それをもっと具体的にいうと

「両親の同意を得る事にしても、男女両方に

親が居る場合には親達二人ずつ四人、本人

二人を合せ計六人の人の同意が必要となつて

来るのです。大の大人の人、六名が全く意見

が同じになるなんて事は私には信じられない

事であるし、又、OP者(障害者)の親達が

この様に同じ考へになる事は先ずないと断定

してもまちがいないと思います。特に障害者

同志が結婚する場合にはこれが強く出る様で

必ず親という者は自分の方が障害者で相手が

健常側の方に一方的に多いのです。

日本では昔から結婚するといふ事は男女両性

が協力して家庭を作るのでなく一方的に男

の都合の好い様な具合にしなければ成立しなかつたのです。嫁に行くという事は夫の家

の一員となる事で有り、決つて夫の妻とな

るのではなくかったのです。その事は今でも世

間によく有る話しだですが、例えば夫婦になつてからも、もし事故か何かで夫(男)の方が

障害者になつた場合には妻(女)はどんな無

理をしても自分の夫を子供を喰わして行き離

婚なんて事は考えないし周囲の者も当り前の

事と思つてゐるのですが、その反対の場合、つ

まり妻なる人が障害者になれば先ず本人達

より周りの人達が離婚と云う事を考へる様です。

男性の側からいえば、嫁さんは一つの道具で

有り労働力で有るので、道具を買う場合に

我が家なるべく故障のない丈夫で長持するのを買います。これと同じ様な考え方方がまだ

まだ世間には有るのでナ。結婚という事と品

来るのです。大体よくいわれる事ですが、障

害者の相手には健常者が好いか障害者同志の

方が好いかという様な事が我々が結婚問題を

考へる場合には必ずと言つてよいぐら出る

のですがこれはこんな事を言上げする方が変

な事で有ると思ひます。障害があろうとなかろう

事です。本当にその相手の人格が自分にあきわ

しければ身体の一部に障害が有るなんて事は

問題になる筈はないのです。私が今迄に仲人

をしたのは十組ほど有りますが、内OP者同

志の組が五組。健常者男性とOPの女性の組

が二組、盲女單一とOPの女性 盲一女性と

健常者の男性。健常者同志、という様なわけ

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうでもそんな話を聞いているところの人達は何

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうでもそんな話を聞いているところの人達は何

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうでもそんな話を聞いているところの人達は何

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

せは一例も有りません。これは今の社会では

どうでもそんな話を聞いているところの人達は何

で、健常者の女性と障害者の男性と言ふ組合

姫とシンデレラ

早川 拉 安

和田君の書かれた『愛の証しのとき』と

いう本を読まれた事と思います。

て色々分類していられたが私も五種類の中の一組です。私は先天性、妻は後天性です。とくに脳性の障害をもつ女性は、むずかし

（和田）そのことをあたたかみて見直し、普通の人のでもちょいと首をかしげるだらうと思つました。

今までに会員の皆様が書かれたり、アドバイスされていますが、よく理解されていないのです。ただ苦しい苦しいと言われるだけで

で収入も減り、貯金も多くなります。十二円は仕事がふえるだらうと思ってています。これから結婚なさる人達に――。

寺が出入りして、なんら普通の家庭と同じです。それだけに障害を持つ女性が結婚を考える時どの程度まで考えて結婚にふみきるかが疑問

毛市等もクリーニングに出す

卷之三

好きで好きで大好きで——。お金も着物もいりやせぬあなた一人がほしいのよ。結婚です。まあそんな人は別として経済上どうするかは普通には夫側の責任です。私は書けませんが苦しいの状態の上に思いきり働けないから収入が少ない。又はない、号で食べるだけは福祉法できめてあると書きました。それだけでは暮して行けないとお見え方もあります。現在結婚されてるCPIの完全に独立して生計を営なまれる人（妻を養うだけの）何人いるでしょう。その方は何もの女性をもらわなくとも健常者とお見えになります。吉田道子

子供をどうしたかという事について考えてみましょう。えらぶっても生物として次の世代を生むために私達は生れてきたのですからC.P.だとて、結婚し子孫を残したくなるのは当りまえの理です。前号に重度だから嫁にいけぬとは限らないとの意を書きました。どういう人がどこがひどいからとはC.P.はくらべることができにくいらで。下肢のみ不由な人と私とどちらがいいとも云えません。躰害部が限定されているのとアテートゼが全身に特に筋と表情筋に行く私と子供を育てるのにどちらが都合がいいとなるとよくわかりません。私には全く不能な動作がないのです。要なからこうでも下手でも手早く出来なくともとにかく出来るのです。言語障害もあると云えますが日常生活にはさしつかえがなく、これも育児上困らないとなると後は姿勢が問題に残ります。テンション・アトーテゼ型の一つのC.P.の特徴であるあの何とも云えぬ奇妙な様子、人前で緊張した時の形容のつかぬ苦痛というか、あれが私はありますのです。変形は普通はありません。ですが私の心労はこゝにありました。母になるべきか否かはこの点でかゝっていたのです。こういう姿姿上の障害の事を私がえて書くのはC.P.の女性にとって社会的にも制約が大せん。大根やかぶの葉をぬかみそやなっばのようを使います。やりくりは主婦のたのしい仕事です。

きいからで、他のボリオとか、切断者とか不自由な部位がきまつていてあとは健全な人はとは問題が異つてくるからです。（新生児期をすぎて後にはっきり発病したとわかつている人は同じCPでも障害がきまつていて異様な表情や不可思議なマヒにはならないらしい）この問題こそ世間が誤解し知能や精神上に欠かんがあると思われ（實際は以外に多いと思はれるが）肉親にうとんざられ好奇心の目を向けられ自分も苦悩しなければならぬのです。私は母親の愛情や育児方法は一般的の女性以上にあるでしょう。前に述べた点は、結婚しようとする母になるまいと少しも消えないで生きがいつきまとう苦悩なのです。同じなのです。日頃CPも人間だと思っているのに母になるのにためらうのは、自ら人間否定するものだと考へついたのです。それが後からCPとして生きなければならぬ多くの友達の幸にもつながつてくる。自覚は子供にも伝わる。CPの母たて母にはちがいないと決心いたし予定の二人の子を産んだわけであります。その後の苦労話は略しまして、現在私は主婦として母親として全くふつうと変りなく生活して居ります。PTAにも授業参観にも作品展でも母親の出席しなければならぬのすべてに出ますしそういう人前でも「ママ、ママこれがぼくのだよ」と指さすところを見ればおとうさんの顔の図画がずらり、どれを見ても笑いたくなる絵ばかり、長男のはいい方だと思うのは親バカでしようが。夜分洗たくし

です。先日の事でした。私はある障害をもつ女性に結婚の条件を開いてみました。すぐに

千八百円、ミルク代三千六百九十四円、合計で一万六千五百十六円です。毎月これだけは食べる外にかかるのです。それに食費を加える三三行でよ三三三円。二ヶ月で三

て朝干して、子供を送り出した足でバスにと  
び乗り開店前のデパートの前にたむろして待  
ち、特売品に向かって声もなくひた迫つてい  
く女の業みたないものを感じる群の中の一入

としてひどなことは忘れている日常です。  
坐り心地のよくなつた主婦の坐と原稿を書く  
時間のある生活は以前より望んでいましたし、  
丈夫で可愛い娘子と、夫と私は近頃幸だな  
あと心より思います。この正月で九回目を向  
えますからこうなるまで八年余りかゝつたわ  
けでその事は又後ほど書きります。

皆さん幸とは自分でつくるものです。

### どこ迄も続く十字架

#### 一子供の問題を中心として—

金沢 沁 沁

先日、わたしはある未婚の脳性マヒの女性の方と、結婚について話し合つた。その人はうめくようになつた。「わたし、子供ということを考へると結婚なんてこわくてできなくなる」と。わたしの答は時かつた。こたえるもとよりのことわらしあはは脳性マヒ者の結婚に対し、特に肯定的でも、否定的でもない。人間として生れて来た以上出来るなら、やはり結婚すべきだと思う者だ。ただし、かなりの覚悟と勇気とを以て、前号で芝藩君も書いていたらしく、たゞように行きあたりばつけない」單に「淋しいから」「苦しいから」

題として見るか、身障者医療のあり方の問題として見るかによって、そのとる姿勢もちがつてくると思う。医療問題として考えるならば医療機関その他全体に関連することになり、「青い芝」だけで懸念でもどうにもなりはしないのであって、中広い共同運動が必要だろう。この問題について一時間程度論議するが、日を改めてデスカッションすることにする。

山北一先の臨時総会で、会則改正案を作り直すということになつて、いたが、いま慌てて会則を改正する必要はないと思うが、星野一全国組織と法人になった時の為に会則改正する筈だったのが、先の改正案ではそれがどこかへ行つてしまつた。

結論一十周年を目指して、法人組織としての会則改正案を練り上げることにする。

役員選出の順序は次の様に決まる。

一月の機関紙で役員選挙方法の解説と役員候補者を公募する。二月の機関紙で自己推選候補者の氏名と経歴その他を発表、同時に投票ハガキを配布。三月に開票

不況不況といわれながら、物価は上る一方年が明けると、お米、国鉄私鉄の運賃が上り又郵便の値上げも審査されている状態で、収入の低い、或は収入のない我々にとってまさに頭の痛いことである。

ところで、青い芝の会では今まで福祉改正とか、重度者の施設々立等を訴えて来たが、(もちろん、それは大事なことだが)それとともに、物価のこと等今日月の生活にひどく問題にも目を向けて皆して考へるようになります。それでそれについての我々の声をアピールする必要もあるのではないかだろうか。

又、値上げについての対策、例えは現在、國鉄運賃は一〇一料以下でも、たとえ一駅でも半額になる引にならないが(それも福祉事務所に行って割引証をもらって来なければならぬ)それを身障者手帳を出札口に出しさえすれば、一〇一料以下でも、たとえ一駅でも半額になる

ようにしてもらえるよう訴えることも必要だと思う。(も以上のことは運賃の値上げがないとしても、そうしてほしいことだが)ともかく、物価高は日々の生活を圧迫していく。生活力の乏しい我々は、より声を大にして値上げ反対を叫ぶべきではないだろうか。

（四〇年一二月）

役員会議録	
十二月十二日 定例役員会(支部長合同)	
出席者	山北、高垣、尾崎、星野、芝、中村
山本、和田、妻(神奈川代理)	
その他参加者	小林、沢井、丹下、寺田
議題	(1)各報告 (2)城西支部から本部へ提出した要望書の件 (3)会則改正の件 (4)次期役員選出手順について (5)新年会について (6)その他
(1) 事務局から	1、歳末チャリティーピックターの券を二百枚流す事にし、現在ほとんど売切れた。ロ、十一月二九日、東京連から呼びかけで、重慶身障児・者に対する都福施設への請願についての都議会議員及び関係局・課長との話し合いに山北、星野が参加。ハ、ニ、三人の就職を斡旋した。
(2) 城南支部	一三日頃機関紙発送の予定
和田、寺田	一先に城西支部から本部へ対して国立身障センター問題について本部はどう考へているのか?この問題についても積極的な姿勢をとつてほしい。という要望書を出したが、その返事をまだもらっていないのだが。
高垣	これは、単なるセンターの人事問題

(6) 要望と提案。和田一都電・バスの割引簡便化。妻一新入会員には会の事をよく分らないようだから、よく分るようにしてほしい。山本一来年は公共料金が大分上るから会費を値上げしたらどうか。(文責山北)
(5) 新役員内定。
務局です。
一月の機関紙で役員選挙方法の解説と役員候補者を公募する。二月の機関紙で自己推選候補者の氏名と経歴その他を発表、同時に投票ハガキを配布。三月に開票

## 重慶身障者センター

### 調査に関して

本年九月頃、本会の更生相談部長である高垣氏のもとへ、別府にある重度身障者センターの入所者から「最近、所の方針が変り、永く入所している者はどんどん退所しなければならないが、これからの事で力になつてほしい」という要旨の手紙が来、この問題を「青い芝の会」はどうするか高垣氏から役員会に持ちこまれたのであつた。

役員会では、この問題を黙って見すごすべきでないと判断し、先に同じ施設で起つた木村さんの問題を取り上げた際の苦い失敗の経験を考えて、まずその実状を調査することにしたのである。その調査は、所の運営方針が最近実際に変わったのか? 変られたのなら如何変わったのか? 永く入所している者を退所させている事実は? 退所した者がその後どのような生活をしているか? ということについてであったが、この最後のことは特に重大なことである。

この調査結果は、こゝに載っている高垣氏の報告の通りである。

別府と伊東の保養所が重度身障者センターと名称が変わったこと、厚生省の「重慶」は厚生可能なだという考え方を考慮せると、

永くいる者は退所させられるという問題は、当然起つて来るはずだということが分かる。し

かし、國立の物としては、重病者収容施設がつくられるまでは一番障害のひどい人たちを扱う施設なので、そこに永く入所していなければならなかつた人は恐らく重症な人だから、重症施設がつくられるまでそこに入所させておいたらどうなのだろうか。重症施設が出来たから永くいる人はそつちへ移りやつてくれ、というのならまだ話は分かる。何かやつてることが前後逆というか、一かん性がないようと思える。

ところで、その重度身障者センターを退所した(させられた?)者がどのような生活をされているか、それ如何によつてこの問題に対する考え方があつたが、ちがつてくると思う。

十一月八日と一日 別府センター  
別府保養所がセンターと改名してから(四月より十月迄)今迄に退所してその後の消息が解る者は次の十三名で

一、藤井岩應 O.P.S. 山口県のクリスチャーンの救護施設に転入  
一、坂村浩 O.P. 入(光の会々員)  
一、丹波千賀太郎、脊損 岡山県立施設に転入

一、辻守 C.P.S. 大分県杵築市の私立施

一、稻田みち子 C.P. 千葉県 ベテヌダホ  
一、中山久 脊損 松葉技歩行、別府市竹細工場に就職 間借通勤  
一、小山茂 ボリオ 近藤秀夫 小池正喜エアーカー会社にバスケットの選手として就き以上四名は日本タフバウトの予定者が六名居ります。  
施設、病院に就院した者の他は理事者に貢献とみんな成功しているとの事でした。社会に出た人々は一度と施設には入所したくないといつています。

世に施設が本当に必要なのは自分では身動き一つ出来ない様な最重度の身障者と重度な精神障者有る。知能的にも正常で日常何か少しの事でも出来る者には国家全て社会なりが生活出来る程度の費用を出して一般社会で生き生きすべきだと考えられます。

(高垣)

に徹するようになりました。

唯一一人のこの子のために縛てを癒性にし、十五年間に六回も引越してあります。七七八九才頃までは医学的に何回となく死源を越えて来たこの子供を丈夫にするために諫倉へ転地、そして十、十一になると少しでも教育的な事を考え鶴沼、日向、現在と最善の道を歩んで來たつもりです。

私共夫婦の結婚十六年間本当に縛て厚志のため尽して來ました。親の義務で、当然の事をしたとは言え今考へると、感無量です。まだまだいろいろと書かたい事がござります。何とぞ御許し下さいませ。

厚志は十五才を迎ました。三年前に希望を持って入園した学園にも今は行かず家にお

ります。一入っ子のため皆にいためられ、家庭の中にあるのが厚志には一番安全の様でなるべく学園へ入れて集団生活させたいと思います。でも今の処は本人の意志を尊重して、すべて強制せずのびのびとさせておりま

す。お陰様で十二年間も続いた発作は今はないで、それだけでも母として感謝いたしておあります。私は今迄神に祈つたり、親類を頼り、お陰様の相談尋ねたのんだり致しましたが、一つとして心から力になって貢えず今では徹

底的な無神論者であり、自力本願を意の精神

永々と御無沙汰致して居ります。会員の皆様いかじよお過していらっしゃいますか? 私もおかけ様はどうやら元気な家事手伝いなどで忙しい毎日を過しております。こちら北の果阿寒町は去る九日には三十三から三五cmもの大雪が降りましたが、皆様の地方ではいかがございましょうか?

「先日十一月三日(水)文化の日の事である」

かな風の中にも静かによく晴た晚秋の一日で

会員の皆様へ

鈴木珠子

初雪や 取入れ作業をおこなわらわ

かれ葉もとび舞う十一月かな

凍空に 今日もとび舞う丹頂鶴

美わしき・海なりの音 冬近し

## 中央支部新年例会の知らせ

事務局だより

編集後記

毎日寒さが加わります折畳さんお元気で  
いらっしゃ。夏以来例会を開いておりません。  
多忙とは申せ私の至らなさをおわびします。  
さて来春の初顔合せ新年例会を左のように  
開きます。是非お出下さい。

司、準備の都合上、回数のはがきを必ずお  
出し下さい。

星野秀子

記

日時 昭和四十一年一月三十日(日)正午  
場所 新宿区十二社二六一 同舟荘  
会費 支部員一百円 金沢向宅  
交通 国電新宿駅西口より、練馬・中野車  
庫前行き池の上・下車



光学硝子切断は手先だけの軽作業ですので  
上半身が健全であれば出来ます。男の方では  
将来の生活もあるので出来れば女の方で年令  
は十代から三十代までよ良いと思ひます。  
独立するまで三年はかかりますが半坪の作  
業場と機械で約五万円位の費用で始められま  
す。月収は八時間作業で二十五日続けば二  
万五千円から三万円の収入があります。

○ 就職案内 大宮市の北田様から次のように  
お便りがありました。希望の方は事務局へ  
前略 貴会の方の内で何んらかの技術  
を身につけて生活を立て行きたく思われて、  
仕事をさがしていられる方がありましたら私  
達(夫婦)で出来るだけのお世話をと思ひお  
手紙を差し上げます。

○ 今年も幕を閉じようとしていますが、皆  
さんは、多忙の日々を送っていること  
でしよう。

○ 今回は前回に続いて、結婚後の生活の実  
状記録の特集を中心にして編集しました。結婚  
は人間として大切な問題であるからです。  
結婚は最大の喜びであると共に苦難もある  
事を、結婚された仲間が、異った立場から  
キャラチして書いて下さった。

これを読まれて一人一人が結婚について新  
たな実感をお持ちになられたことでしょう  
それと共に、生きて行く苦難の道を考えて見  
て頂けたら、この特集の意義があった様に思  
われます。

○ 城南支部の例会は一月一四日の午後田園  
調布幼稚園で開かれ、出席者は七名と少なか  
ったが田園調布教会の牧師先生の奥さんや教  
会の方も来られて、我々の問題に耳を傾け、  
又一緒になって話し合って下さり、有意義な  
会だった。

○ 一月の特集は「新春おたより」で皆さん  
が正月にされた事や、考えた事などをおた  
よりにしてお寄せ下さい。

○ 今年も何の変りばえしない会報になつて  
しまい心苦しく思います。来年はもっと充  
実した会報に努力して行きたいと思います。  
新春のおたよりは一月十五日迄(中村)